

## 協議事項 1

# 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる 本県高等学校教育の在り方に係る鳥取県教育審議会答申について

平成26年10月20日  
高等学校課

### 1 概要

平成25年4月23日に県教育審議会へ行った諮問に対し、県教育審議会学校等教育分科会において審議がなされ、別添のとおり答申を受けた。

#### 《諮問内容》

- 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について
- 1 グローバル化や情報化、少子高齢化がより一層進展するなど社会が大きく変化する中で、生きる力を育み、時代の要請に応じていく高等学校教育の在り方
  - 2 県人口や生徒数の減少に対応した高等学校の在り方

### 2 分科会開催日時及び場所

回数	日時	場所
第1回	平成25年6月4日(火) 15:40~17:00	白兔会館
第2回	平成25年9月27日(金) 10:00~12:00	県庁
第3回	平成25年11月11日(月) 14:00~16:00	県庁
第4回	平成25年12月19日(木) 10:00~12:00	白兔会館
第5回	平成26年1月10日(金) 10:00~12:00	白兔会館
第6回	平成26年2月17日(月) 10:00~12:00	白兔会館
第7回	平成26年6月9日(月) 10:00~12:00	白兔会館
第8回	平成26年8月8日(金) 16:00~17:00	白兔会館
第9回	平成26年9月8日(月) 10:00~12:00	白兔会館

### 3 答申の概要

- (1) 答申日：平成26年9月29日(月) 午前10時~10時30分
- (2) 場所：県庁第二庁舎5階 教育委員室
- (3) 内容：県教育審議会 矢部会長から県教育委員会 中島委員長に対して答申された。
- (4) 概要：

#### I グローバル化や情報化、少子高齢化がより一層進展するなど、社会が大きく変化する中で、生きる力を育み、時代の要請に応じていく高等学校教育の在り方

##### 《生涯を通じて主体的に学び、考え続ける力の育成》

- ◆変化の激しい社会においては、常に学び続ける学習者を育成するとともに、グローバルな視点で物事を考える力や、新しい価値を生み出すイノベーションを創出する力の育成が必要
- ◆過去に前例のない課題に対応するために、ICT等を活用した探究的・協調的な学びを推進していくことが必要

##### 《他人を思いやる心などの豊かな人間性の育成》

- ◆国際競争社会の中で共に助け合い生きていくために、コミュニケーション能力など他者と良好な関係を築く力の育成が必要であり、そのためには家庭や地域との連携も重要

### 《生徒一人一人の可能性の伸長》

- ◆早い時期からきめ細かいキャリア教育を行い、生徒一人一人に望ましい勤労観や職業観を身に付けさせることが必要であり、小学校、中学校とも連携して体系的・継続的に取り組むことが必要

### 《社会的に自立していく基盤となる生きる力の育成》

- ◆自ら課題を見出し、他者と協働しながら解決策を考えていく探究的な活動が必要であり、「生徒を学びの主体とした学習」への転換が必要
- ◆特別な支援を要する生徒への支援体制の充実とともに、共生社会の形成に向けて「インクルーシブ教育システム」づくりの推進が必要

## Ⅱ 県人口や生徒数の減少に対応した高等学校の在り方

### 《鳥取県や地域を愛する生徒の育成と学校と地域の連携》

- ◆地域をフィールドにした探究的な学習や、地域資源を活用した学習の推進が必要
- ◆地域と連携しながら学校の魅力や特色づくりを行っていくことが必要

### 《適正な学校・学級規模と配置》

- ◆学校の活力の維持等のためには、ある程度の学校規模が必要（1学年4学級から8学級程度）
- ◆生徒数減少には、学級減だけではなく、学校又は学科の再編、学級定員減、少人数授業なども視野に入れて検討することが必要
- ◆小規模化が進む中山間地域等の学校は、県外からも生徒が集まってくるような魅力や特色のある学校づくりが必要
- ◆定員の充足状況等に係る一定の基準を設けて、学校の規模や統廃合、再編等について総合的に判断

### 《鳥取県が実現できる卓越性》

- ◆学校や学科の枠を超えた連携により、県全体の学びの質の向上につなげていくことが必要
- ◆進学等で県外を離れても、将来は戻ってきて本県の発展に貢献する人材の育成が必要
- ◆生徒自身がデザインした学びを可能とする教育内容について、外部機関等との連携・協働体制の構築も視野に入れた検討が必要
- ◆学習スタイルに合わせて学びの速度や進路の変更が可能となるような多様な学びの在り方の検討が必要

### 《各学科の在り方》

- ◆普通学科と専門学科を併設した入学後の多様なニーズに対応した新しいタイプの学校の設置を検討

## 4 今後の予定

学校等の関係機関との意見交換やパブリックコメント等を実施しながら、平成27年度中を目途に平成31年度以降の県立高等学校の在り方の基本方針を策定する。

**【参考】第9回県教育審議会学校等教育分科会（9月8日開催）における主な意見について**

**（適正な学校規模について）**

「1学年当たり4学級から8学級程度の規模が適当」とあるが、現在、その規模を下回っている学校が約20%存在しているので、その学校の規模は適当でないということになってしまう。したがって、「小規模な学校にも教育上、様々なメリットがある」という趣旨の記述を付け加えると良い。

**（学級定員減について）**

本審議会は、今後の高等学校教育の在り方を示すことが目的であり、学級定員減に伴う県の財政負担のことまで記載する必要はない。

**（私立高校等と協調した取組について）**

「補完」という言葉には短所を補うという意味がある。県立高等学校も私立高等学校もそれぞれミッションとビジョンを持って取り組んでおり、「補完」という表現を使用するのは不適切だと思う。

また、本県教育の多様性を担保するため、私立高等学校と県立高等学校との共存を図っていくことが必要であるという記述を入れるべきである。

**（学校のPRについて）**

総合学科高等学校だけでなく普通学科及び専門学科高等学校も、学校や学科の特色を中学校や保護者、地域にPRして十分な理解を得る必要があるという記述を入れるべきである。

# 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について

〔平成26年9月〕鳥取県教育審議会 答申概要

## 平成31年度以降の県立高等学校の在り方

鳥取県教育審議会への諮問（平成25年4月23日）

次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について

- 1 グローバル化や情報化、少子高齢化がより一層進展するなど社会が大きく変化する中で、生きる力を育み、時代の要請に  
応えていく高等学校教育の在り方
- 2 県人口や生徒数の減少に対応した高等学校の在り方

グローバル化や情報化、少子高齢化がより一層進展するなど、社会が大きく変化する中で、生きる力を育み、  
時代の要請に応えていく高等学校教育の在り方

先を見通すことが難しい予測できない局面を  
自ら切り拓いていく力の育成

▶ 生涯を通じて主体的に学び、考え続ける力の育成

### ◆ グローバル社会の持続的発展を支える力の育成

- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・学ぶ意義を理解した主体的学習者の育成
- ・生涯にわたって学び続ける学習者の育成
- ◆ 過去に前例のない課題等に立ち向かう力の育成
- ・ICT等を活用した探究的・協動的な学びの推進
- ・グローバル人材の育成や新しい価値を生み出すイノベーションを創出する力の育成

▶ 他人を思いやる心などの豊かな人間性の育成

### ◆ 国際競争社会の中で共に助け合い生きていく力の育成

- ・自分の意見を的確に他者に伝える力の育成
- ・コミュニケーション能力や協調性など、他者と良好な関係を築く力の育成
- ◆ 家庭との連携
- ・基本的な生活習慣、道徳心、規範意識、自律性等の醸成
- ◆ 地域との連携
- ・地域との交流、体験活動、ボランティア活動等とおとした郷土愛や思いやりの心の育成
- ・インターネット等地域の企業との連携による社会参画の態度の育成

生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、社会的に自立していく  
基盤となる生きる力の育成

▶ 生徒一人一人の可能性の伸長

### ◆ 教育の質の保障

- ・教育環境の適切な整備、教職員の配置、教育課程の編成、学校評価等とおした教育の質の保障に向けた取組
- ◆ 多様化する生徒の興味・関心・適性等への対応
- ・習熟の状況に応じた学習や芸術・文化・スポーツ・各種体験活動等の取組
- ・生徒の多様性を尊重しつつ、個に応じた教育を実践
- ◆ キャリア教育の充実
- ・望ましい勤労観や職業観の育成
- ・小中高の校種を超えた体系的・継続的なキャリア教育の実践

▶ 社会的に自立していく基盤となる生きる力の育成

### ◆ 生徒を学びの主体とした学習への転換

- ・協動的な学習、探究的な活動の推進
- ◆ 自己肯定感を高める取組
- ・学び直し等による基礎学力定着のための取組
- ・社会貢献活動等の体験的学習とおした自己有用感を高める取組
- ◆ 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
- ・特別な支援を必要とする生徒への支援体制の充実
- ・特性に応じた指導や専門の支援職員の配置、関係機関と連携した社会の理解を促進する取組等の実践

生徒減少期の中で高い教育力を発揮できる高等学校教育の在り方

▶ 鳥取県や地域を愛する生徒の育成と学校と地域の連携

- ◆ **魅力ある学校づくりの推進**
  - ・地域と連携した探究的な学習、地域資源を活用した学習の実践
  - ・開かれた学校づくりの推進
  - ・地域の特性に応じた魅力ある学校づくりによる地域を担う人材の育成

▶ 適正な学校・学級規模と配置

- 教育機能を十分に発揮できる学校規模
- ◆ **適正な学校規模**
    - ・1学年当たり4学級から8学級程度
    - ・県全体のバランスを考慮しながら、学校・学科の規模を検討

生徒数減少への対応

- ◆ **学校の再編**
  - ・学校の活力の維持や効率的な社会資本整備の観点から、学級減以外にも学校や地域の状況に応じた再編も視野に入れて検討
- ◆ **少人数の授業**
  - ・ティームティーチングや習熟度別授業など、学級定員減と同等の効果が得られる授業形態等について検討

中山間地域等の小規模校への対応

- ◆ **中山間地域等の学校の在り方**
  - ・生徒や保護者等のニーズに応えるとともに、県外からも生徒が集まってくるような魅力や特色のある学校づくりの検討
- ◆ **小規模化が進行している学校の在り方**
  - ・定員の充足状況等に係る一定の基準を設け、学校規模や再編等を総合的に検討

私立高等学校等と協調した取組

- ・県立、私立高等学校等は、互いに明確なミッションやビジョンを持ちながら、今後の生徒数の減少に対して役割を果たし、協調・共存しながら切磋琢磨

魅力と活力にあふれる高等学校教育の在り方

▶ 鳥取県が実現できる卓越性

- ◆ **学力向上の取組**
  - ・授業改革を中心とした学力向上の取組の推進
  - ・幼保・小・中・高・大の縦の連携の強化
  - ・学校・学科の枠を超えた横の連携や切磋琢磨による学びの質の向上
- ◆ **鳥取県を内外から支える人材の育成**
  - ・自然に親しみ、地域への理解を深め、伝統文化を継承する取組
  - ・すべての高等学校で特色や強みを生かした教育を実践
  - ・県外に進学後も、将来は戻ってきて本県の発展に貢献する人材の育成
- ◆ **鳥取県独自の高等学校教育の在り方**
  - ・生徒自身がデザインした学びを可能とする教育内容について、外部機関等との連携・協働体制の構築も視野に入れて検討
  - ・学習スタイルに合わせて学びの速度や進路の変更が可能となるような多様な学びの在り方の検討

▶ 各学科の在り方

- ◆ **普通学科**
  - ・特色を生かした教育内容の充実により、高度な知識・技能を身に付けた人材や社会の持続的発展に寄与する人材を育成
- ◆ **職業系専門学科**
  - ・専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着
  - ・ものづくりなどをとおして、職業人としての使命感、豊かな人間性を育成
- ◆ **総合学科**
  - ・地域や学校の実態に応じた系列の検討や系列にとられない自由な選択科目群の設定の工夫など一層の特色化を推進
  - ・学校の取組を積極的に中学校や地域にPR
- ◆ **新しいタイプの学校**
  - ・普通学科と専門学科を併設した入学後の多様なニーズに対応できる学校の設置を検討

▶ 定時制・通信制課程の在り方

- ・きめ細かな指導により、多様な学習ニーズのある生徒に対応するとともに、ICT等を活用した基礎的な学びや上級学校進学に向けた発展的な学びを支える体制を強化
- ・能力や適性に応じた多様で柔軟な教育課程の編成
- ・体験的活動の充実などをとおして生徒の学習に対する意欲を向上